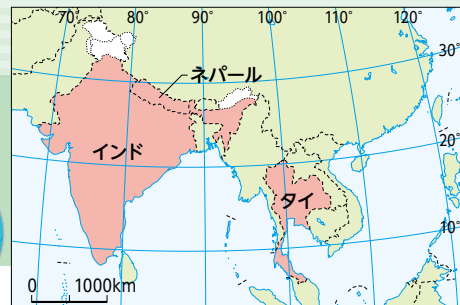


国際協力の
最前線+α

8



「よりよい復興」を世界に広める

国際的な防災事業に取り組む
JICAの竹谷公男さん

Q 「よりよい復興」とはどのような考えなのでしょうか。

地震、津波、川の氾濫などの災害は、何年かのサイクルで同じ地域にくり返し発生します。災害後、復興する際に災害の前と同じ状態にもどしたらどうなるのか？

将来同じレベルの災害に見舞われると、再び同じだけの被害が発生することになってしまいます。そのときに人口が以前よりも増えていれば、より大きな人的被害をこうむるでしょう。

そのような悪循環をたつために、私が国連に提案し、世界的にめざされるようになったのが「よりよい復興」です。災害前に脆弱だった部分を災害に強いものにかえていくことによって、次に災害が発生したとき、被害をなるべく少なくするのが目的です。被災をきっかけとして地場産業の構造を改善し、地球の経済を発展させることもめざされています。

Q 現在のお仕事について教えてください。

ふだんから災害多発国や災害脆弱国の状況をチェックし、それぞれの状況に応じた防災戦略を策定し、その実行をサポートしています。難しいのは各地域の防災に対する意識をかえていくことです。いわゆる途上国とよばれているところでは、事前の防災にお金をかけるのは経済的に無理だという話をよく聞かされます。

しかし日本では戦後の復興期の経済的に苦しい時代から防災に力を入れ、結果として大きな災害から被害をより少なくしてきたという歴史があります。災害後の復興はもちろん大切ですが、災害が発生する前に防災をきち

んとやっておけば、災害が発生しても被害を減らせることができます。まずその意識を各国の責任者に認識してもらうことが私の仕事の一つです。

Q 現在の仕事につながる学生時代の経験があれば教えてください。

中学生のときにインドで濁水による大飢饉が発生したことを知り、被害にあった人々を助けたい、と考えるようになりました。そのため大学では水資源開発学を学んでいます。とはいえ、いつもそのような使命感に燃えていたわけではなく、高校時代はサッカーに明け暮れていました。しかし、今からふり返ると、そのように何か一つに集中、熱中できるものがあって、結果的に自分の性格を形づくるのに非常に役立ったと思います。



2 2015年のネパール大地震でくずれた建物(写真提供: JICA)



1 洪水後の緊急支援の際にタイのインラック首相(左)にJICAの支援について説明する竹谷さん(2011年) 2011年に発生したタイの洪水では、多くの日系企業の工場も浸水し、アジアの工業製品の供給体制に大きな被害が生じた。



3 住民支援の一環で配布されたヘルメットをかぶった住民(ネパール, 2015年, 写真提供: JICA) ネパール大地震は「仙台防災絆組」以降におこった大きな災害であった。「よりよい復興」の考え方にもとづいて、災害前の状態にもどす復興ではなく、災害のリスクを軽減するための事前投資を取り入れた復興が進められている。